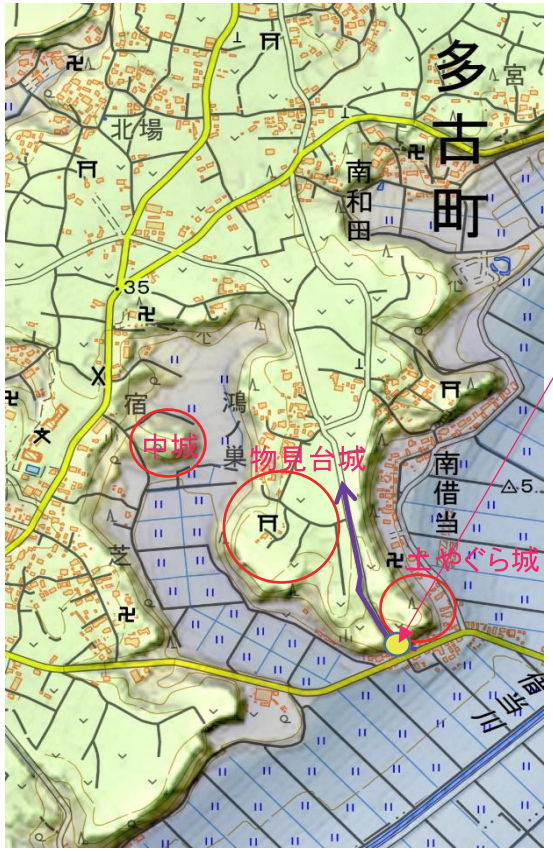
山城ガールむつみの出陣のススメ

「いざ、物見台城へ！」の巻



中城坂の入り口にある石碑

右の地図、黄色の丸の場所に石碑あり

物見台の高まり

100m近く延びる帯曲輪と土塁

山城がたくさん存在する多古町！
今回は物見台城をご紹介✨

土やぐら城、中城とセットで
お越しください♪

物見台城と土やぐら城の間には「中城坂」と呼ばれる坂が通っています。この道は中世から使われていた可能性があり、土やぐら城はまさにこの道の見張りの役目を担っていたと考えられます。ぜひ、歩いてみてにゃ♪

物見台城は多古町南中「鴻巣集落」周辺の台地に築かれ、その台地が広範囲にわたり城郭化されたと考えられます。土やぐら城が同じ台地の突端にあることから、もとは物見台城と土やぐら城は一つの城郭として連携して使われていたことでしょう。
物見台城は西側に入り込む相ノ谷（あいのやつ）を監視する役目を持っていたと思われ、相ノ谷を挟んで位置する中城との関係性を考えることが歴史を紐解く鍵になりそうです。
南側には借当川が流れ、水陸両方の要衝地にあたります。戦国期には正木氏が近くまで侵攻してきたことが分かっていて、ますます物見台城、土やぐら城の重要性が浮かび上がります。
物見台城はその名の通り、物見台が良好に残っています。さらに帯曲輪や虎口をみることができ、周辺に広がる景色とともに歴史を楽しむことができる素晴らしいお城です。

物台城では、 令和 3 年 11 月 6 日に日本初の「お城き」が行われました。
「お城き」は、 山城のトップシーズンである秋から冬にかけての訪問を歓 すべく、 城を整備し、 安全祈願を行うものです。
全国各地からたくさんのご参加をいただき、物台城整備のボランティア活動をしていただきました。
多古町では、今後毎年、 お城きを行っていきます。

左・物見台城の名の由来となった物見台が整備により綺麗に見えるようになりました。説明板なども設置。

右・草藪ではいることもできなかった平場。整備により、虎口が姿を現しました。

物見台城の周辺が里見軍の兵火に焼けたとの伝承もあり、
この地域が戦乱の際に緊迫していたことがわかります！
そんな状況の中、物見台城、土やぐら城などの城郭が築かれたのでしょう。

お城開きの整備作業風景

山城ガールむつみ

お城開きの際の
整備ボランティアの
おかげで、草藪だった
物見台城が数百年の
眠りから目を覚まし、
姿を現しました！